

令和 3 年度 県立鉾田第一高等学校附属中学校自己評価表

目指す生徒像	○ 高い知性、たくましい気力、礼節を重んじる人間性を備えた生徒 ○ グローカルな視点と行動力を持った生徒		
	6 年間の教育計画により、全教職員がその専門性を活かし、組織的できめ細かな教育を実践する。		
昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
・新型コロナウイルス感染症予防による緊急事態宣言を受けた休校期間を経て、6 月より本格的に開校初年度の学校生活を開始することになった。感染防止のため、多くの制約はあったものの、最大限に学習活動や体験活動を実施することができた。 ・教育課程の特性を生かした授業時間数増、また、国語・数学・英語における少人数制学習やティームティーチング等により、基礎学力の向上を図ることができた。 ・休校期間中は、ICT 教育の利点を大いに活用した。オンラインによる授業や生徒面談等により、生徒の学習機会を確保し、教員と生徒とのつながりを保つことができた。 - また、ICT を活用した保護者との連携も積極的に行うことができた。今後は、ICT 活用の質を高める工夫を行っていく。 ・今年度も、生徒の主体的な活動を積極的に推し進め、学	基礎学力・授業の質の向上	・「単元テスト」の特性を活かし、基礎学力の定着を図る。 ・学習が知識の習得のみに偏らぬよう、思考力・判断力を育み、「自ら課題を発見し、解決する力」の向上を図る。 ・授業力向上のため、教員間の授業観察と校内授業研修を推進し、職員の指導力及び授業の質の向上につなげる。 ・指導力向上のため、職員が教材研究や自己研鑽に努める。	
	個に対応した指導の充実	・生徒の学習状況を適切に見極め、指導方法・指導内容を工夫し、少人数制学習の特性を最大限に活かす。 ・特別な支援を必要とする生徒の指導に対応する研修会を実施する。	
	進路意識・進路実績の向上	・中高一貫教育を基盤として、職員が指導力を高め、生徒の進路意識高揚や希望進路実現につなげる。 ・各学年の進路行事の意義を十分に指導し、自己の在り方生き方について考えさせる。 ・生徒との個別面談を充実させ、進路目標を明確化させる。 ・進路に関する講演などで収集した正確な情報を進路指導に活用する。 ・難関国公立・私立大学の合格者数増につながる学習を継続させる。	
	特別活動・部活動の活性化	・学校行事への積極的な参加を促し、学級活動や委員会の活動により主体的に取り組み、社会に貢献できる人材、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。 ・部活動ごとの活動目標を明確にし、県大会以上の大会に出場できる部活動を増やす。 ・キャリアパスポートを効果的に活用するために、生徒自身の足跡をきちんと残せるように指導する。	

級活動、委員会活動、学校行事等の活性化を目指す。また授業や探究学習において、体験的な活動を積極的に取り入れ、生徒の主体性を伸ばしていく。部活動は、運動部が4部、文化部が11部と限られた設置数の中でも、活発に活動できるように指導助言を重ねていく。 ・学校ブログ等による情報発信を積極的に行うことで、地域からの理解を高めることができた。学校評議員制度を活用や、ホームページ、アンケートなどの広報広聴活動を工夫する。	マナーや規範意識の向上	・全職員が共通理解をもって指導にあたり、生徒が自ら考え、率先してルールやマナーを順守しようとする態度を育てる。 ・異学年交流を通して、生徒の自己有用感を高めることにより、規範意識の向上を図る。 ・全体的な取り組みと合わせて、生徒一人一人の特性や発達段階に応じた指導を図る。		
	学校評価の推進	・自己評価や外部評価の内容、また、評価方法・評価対象等を検討する。 ・学校評議員制度などを通して家庭・地域社会の本校への要望や期待を把握する。 ・ホームページやアンケート等の広報広聴活動を充実させ、学校を活性化させる。		
	働き方改革	・業務の目的と目標を明らかにし、効果的な教育活動を行う。 ・ICT活用等を推進し、事務作業の効率化を図る。 ・業務の平準化を図り、関係者の協力・理解に努める。 ・教職員一人ひとりが勤務時間についての意識改革に努める。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
国語	・国語への興味関心の高揚と基礎的な知識の定着	・図書館との連携を強化し、読書指導の充実を図る。		
		・漢字、語彙の学習を通して、表現に必要な基本的な知識を身につける。		
	・読解力、表現力の養成	・文章を要約したり、スピーチを聞いてまとめたりする学習を通して、他人の考えを分析的に理解する力や批評する力を養う。		
		・複数の意見を比較する学習を通して、幅広い視野や考え方を養う。		
	・生徒が主体的に学習する環境の整備	・ICTを積極的に活用した授業を展開し、学校図書館や地域の図書館との連携強化を図る。		
		・生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう、授業の展開や単元テストの内容を工夫する。		
		・課題の設定を工夫し、学習習慣の確立を図る。		
	・指導技術の向上	・教員間の授業公開や意見交換を積極的に実施し、指導技術の向上を図る。		
社会	・確かな学力の向上	・各授業の単元において、問題解決的な学習課題を意図的に設定することで、生徒が主体的に学びに向かうよう工夫を図る。		
	・基礎的内容の理解の徹底と授業方法の研究	・授業を第一とし、基礎・基本の確実な習得を図りつつ、言語活動を多く取り入れることで思考力・判断力・表現力の土台を固める。		

		・ICT教育のさらなる推進を行い、パワーポイントやデジタル資料、クロームブックの活用を前提とした授業展開を行う。			
		・単元テストの実施後に振り返りを行うことで、基礎知識の定着を図る。			
		・教材の創意工夫に努め、「わかる授業」を展開することで生徒の意欲的な学習参加を図る。			
		・授業のまとめにおいてICTを活用することで、円滑なシェアリングを図る。			
		・高等学校への接続を考慮し、共通テストに向けての対策・指導方法の研究を行い、資料の比較や、レポートを作成させるなどの表現力の向上を図る。			
	・現代の社会への関心の高揚	・我が国の伝統や文化、法や金融、消費者行政、人権等に関する諸問題を取り上げ、現代の社会への興味・関心を高める。			
数学	・きめ細かな授業の展開	・生徒の理解度を把握して、授業の展開や説明方法を工夫する。			
		・1学級を2つに分けるなどして、基礎学力の定着を図る。			
	・家庭学習習慣の確立と応用力の養成	・問題集等の課題により、家庭学習習慣の確立を図る。			
		・授業で問題演習の時間を確保し、発展的な内容も扱う。			
	・意欲をさらに高める指導	・難度の高い問題も提供し、生徒のさらなる意欲と数学力の伸長を図る。			
		・放課後等の時間を活用し、生徒の質問に対応する。			
	・指導技術の向上と指導方法の工夫	・授業参観を相互に行い、意見交換を行う。			
		・中学・高校の枠を越えて、問題の解法や指導方法について研究する。			
理科	・学力の向上	・単元テストを実施し、知識の定着を図る。			
		・生徒に必要な学力を身に付けさせるために、授業を工夫し、学習活動を充実させる。			
	・設備、備品の充実	・実験・実習による学習によって、体験させて興味関心を持たせ、学習意欲を向上させる。			
		・設備備品を徐々に整備し、学習環境をより良いものにしていく。			
		・Chromebook、GSuiteを中心としたICTの効果的な活用を行う。			
	・指導力の向上	・共通テストに向けての対策・指導方法の研究を行う。			
		・高校の各科目と連携し、教材研究を行う。			
音楽	・音楽表現への意欲	・視聴覚教材等を利用して分かり易い授業の展開を図り、音楽・音楽文化への興味関心を高め、音楽表現への積極的な取り組みを促す。			
	・表現の技能の習得	・様々な楽器の演奏を体験させ、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけさせる。			
	・音楽に親しむ態度の育成	・古典的な音楽から現代音楽まで幅広い音楽を視聴することで、音楽を愛好する			

		心情を育むとともに、音楽に親しんでいく態度を養う。			
美術	・主体的表現活動	・芸術作品の良さや表現技法を学ぶことから、自己表現及び創造力の追求を目指す生徒を育てる。			
	・個々の能力を伸ばす工夫	・個々の力を伸ばすため、補助や助言を行ったり、手本を示したりして、個人指導の充実を図る。			
		・積極的な作品づくりを促し、技能を伸ばすとともに、様々な表現技法を習得させる。			
	・鑑賞する力の育成	・数多くの芸術作品に触れさせ、鑑賞の能力を高めるとともに、芸術を愛好する心を育む。			
保健体育	・体力の向上	・新体力テストの総合評価を伸ばす。			
		・生徒の運動時間を確保し、自ら体力を高める学習の工夫を行う。			
	・授業の充実	・授業を通して運動の楽しさを実感させ、自主的・自発的に活動できる能力を養う。			
	・規範意識の醸成	・授業を通して、ルールやマナー及び時間を守る態度を養う。			
	・副教材を利用した授業の工夫	・Google Classroom、パワーポイント、DVDなどを活用し、わかりやすい授業の展開を図る。			
技術	・生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決する力の向上	・授業の中に身近な生活に関する情報を取り入れ、生活における課題を見つけることができる発問の工夫をする。			(情報の学習は、令和3年度から実施)
		・思考ツールなどを活用した対話的活動を多く取り入れ、生徒が多角的に課題をとらえ解決できるようにする。			
	・見通しをもつことができる学習展開	・基礎的な技能や知識を事前に習得したことを実習や実験につなげ、生徒が主体的に取り組むことができるようにする。			
		・題材における学習計画を伝え、学習内容の見通しをもたせることで理解力の向上につなげる。			
	・情報活用能力の育成	・表計算ソフトや文書作成ソフトを用いて、様々なデータを扱う上で最小限心得ておくべき資質を身に付けさせる。			
家庭	・基礎的な知識と技術の習得	・情報活用に関する興味関心を持たせるだけでなく、情報化の負の部分にも配慮し、情報モラルやセキュリティに対する意識を育てる。			
		・実習を通して、生活に関する基礎的な知識と技術の習得を図る。			
	・生活の向上を図る実践的態度の育成	・実験、実習を取り入れ、日常生活に応用できる知識と主体的に行動できる力を養う。			
		・生活に関する最新の情報を授業に取り入れ、社会の変化に対応できる能力を養う。			

英語	・ Google Classroom を活用し 具体的目標を意識させた学 習習慣の確立	・ Google Classroom を活用し、主体的に生徒が学習できるようにする。			
		・ Google Classroom の内容を充実させる（予習や宿題、課題テスト及び単元末テスト等）。 ・ 意欲的に英語学習ができるよう英検、ALT の活用を促す。 ・ 課題テストを年 30 回実施し、学習の習慣化を一層図る。			
	・ 生徒の多様な学力に応じた 指導の充実	・ 少人数制学習の利点を生かし、授業・復習のサイクルの確立を図る。新テストでも必要とされる 4 技能を総合的に伸ばせるよう、活動と指導法の創意工夫に努める。			
		・ 補習や classroom 等をとおして、個別対応を充実させる。 ・ 個々の英語力に応じてサイドリーダーを利用して多読を奨励する。 ・ 学力推移調査を実施し、個々の英語総合力を判断する。また弱点部分を補填・強化できるよう事後の指導に役立てる。 ・ 英検受験を奨励する。			
	・ 英語 4 技能の向上	・ 「聴く・話す・読む・書く」の 4 技能包括型活動を積極的に取り入れた授業を実践する。			
道徳	・ 目標達成のための授業の展開	・ 自己を見つめること、物事を多面的・多角的に考える力、人間としての生き方についての考え等を道徳の資料をもとに意識させ、道徳的实践力を育てる。			
	・ 道徳資料の有効活用	・ 道徳の教科書に加えて、日常生活や社会の出来事など、道徳性を追求できる資料を活用して生徒が積極的に話し合える授業を行い、道徳的価値を十分に考えることができるようにする。			
	・ 教育活動全体を通した道徳	・ 特別な教科道徳が道徳教育の要であることを基本に、各教科、総合的な学習の時間、特別活動はもとより、学級活動、給食、清掃等、その都度道徳的価値判断に基づいて行動できているかに注視し、短時間でも道徳性を養う助言や支援を生徒に施す。			
	・ 道徳の評価	・ 道徳性にかかる成長の記録を継続的に把握し、個々の伸びを肯定的に捉えることとする。			
総合的な学習の時間	・ 探究的な学習への取組	・ 探究的な学習の良さを実感するために、生徒の知的好奇心を刺激し、自分の住む地域を調べていこうとする意欲を持って調べていこうとする生徒を育てる。			
	・ 社会や地域活動への参画	・ 探究的な学習を通して調べたことや実践を生かすために、自分の地域の活動に参加したり、地域に貢献できる活動を行ったりして、社会参画しようとする資質を養う。			
教務	・ 授業時数の確保	・ 授業時間を確保するとともに、曜日毎の授業時数の均等化を図る。			

	・充実した授業を目指した教育課程の編成	・各教科と連携し、生徒の学力や希望する進路に即した教育課程を研究し、編成する。			
		・少人数制学習におけるグループ編制を工夫するなど、より効果的な授業展開の方策を研究し、生徒の学力向上を図る。			
	・行事等の円滑な運営	・各分掌とのコミュニケーションを密にし、学校行事の日程やそれに伴う日課の調整を行い、学校運営を円滑にする。			
	・成績等の円滑な処理	・情報管理部と連携し、校務支援システムを活用した成績処理や各種帳票類の作成を円滑に進める。			
未来企画	・本校の魅力や生徒の活動の積極的な発信による「銚一ブランド」の確立	・スクールガイド、ポスター、プロモーション用動画の作成			
		・小学校訪問の実施 ・進学フェアへの参加			
	・本校に対する外部の声の広範囲からの収集	・オープンキャンパス（小学生対象）の企画、運営 ・学校公式ウェブページの内容の充実 ・学校評価アンケートの実施、集計、分析			
進路指導	・学習習慣の確立 （平日の最低家庭学習時間 学年＋1時間の確保）	・Google Classroom 等を使用した家庭学習の確立			
		・学習時間調査の実施（年1回）			
	・効果的な学習指導法の研究と実践	・「授業評価」（授業アンケートの実施、「授業参観メモ」の配付） ・「教科内授業研究」を年2回実施			
情報管理	・持続可能な情報環境の維持と情報資産の有効利用	・効率的な運用と管理…事務室との連携 教員セグメント 普通教室及び特別教室セグメント パソコン室セグメント ・各セグメントのソフトウェアのバージョンの統一を検討する。			
		・緊急情報メールシステムの普及と有効な運用に努める。			
		・各種データベースの保守…学年・関係分掌との連携 校務支援システム 進路情報システム 蔵書管理システム ・情報セキュリティの実施手順に沿って、情報機器等の扱いに関する内規等を整備する。			
	・教員研修の充実	・個人情報管理研修を実施し、個人情報管理ガイドラインの運用上の問題点に対応する。			

生徒指導	- 生徒が安心安全に学習活動・部活動に取り組める生活環境の整備 - 基本的な生活習慣と規則を守る態度の育成 - 各学年及び各部所と連携した生活指導の推進 - 高等学校への接続を意識した生徒指導の推進	生活関係		
		・各学年と連携して、服装頭髪指導の徹底を図る。		
		・集会等でルールやマナーについての意識の啓発を図る。		
		・登校指導を実施し、制服の着こなしや挨拶の励行を徹底する。		
		・さわやかマナーアップ運動を通して、マナー・モラルの向上を図る。		
		・時間を自己管理できるよう、継続的に声をかけ、時間を守る意識を高める。		
		・貴重品の管理及び移動教室時の施錠を生徒が自主的に出来るよう啓発を図る。		
		・スマートフォンの使用について、ルールやマナーを遵守できるように啓発を図る。		
		・校内巡視を実施し、生徒の様子を直接把握するよう努める。		
		・いじめを絶対に許さない姿勢といつでも相談できる受容的な姿勢を、教員間で共有し、生徒に発信し続ける。		
	非行や事故等の未然防止と早期発見に向けた取組	交通関係		
		・公共交通機関における利用方法に関する指導		
		・交通安全講話の実施		
		・自転車点検及び交通安全指導の実施		
		問題行動未然防止対策		
		・被害調査（アンケート等）を実施し、問題行動の早期発見・初期対応に努める。		
		・インターネット利用講座の実施とスマホルールづくり等の保護者への協力を依頼する。		
	スクールバスの円滑な運行と安全確保	・長期休業前に生徒指導部からのお知らせを発行することによる問題行動等の未然防止を図る。		
		・薬物乱用防止教室を実施する。		
教育相談	支援が必要な生徒の早期発見	・生徒の乗車希望調査を綿密に行い、銚田二高、委託バス会社さらに校内各組織と緊密に連絡をとりながら、限られた運行条件・運行資源のなかで最大限乗車需要に応えられる運行計画の策定と適切な案内・安全を保つ乗降指導を行う。		
		・『相談室だより』などによる生徒・保護者への広報		
		・「教育相談アンケート」の実施と、その結果の分析・検討		
		・学年会議での情報収集		
	適切な援助活動の実施	・生徒情報の整理と関係者によるミーティング		
		・援助が必要な生徒との面談・必要に応じた保護者との面談		
		・保護者、校内関係者間の円滑な連携の援助		
		・スクールカウンセラーとの連絡、調整		
		・特別な支援を要する生徒についての情報交換及びケース会議		

	・教育相談研修	・校内研修会（各部との連携等）の計画と実施			
		・外部で行われる研修会の紹介と参加			
進路指導	・体系的な進路指導の実施	・中高一貫教育を生かした進路行事の運営について調整する。			
		・1学年では、探究活動で地域を調べる活動を通して職業人としての将来を考えさせ、職業観の育成に努める。			
		・2学年では、国内語学研修を通して国際的な視野を育てるとともに、科学的な研究にも触れ、グローバルに活躍しようとする意欲を高める。			
		・3学年では、生徒自身がこれまでの多様な経験を生かして自らの将来像を描けるようにし、高校段階での進路指導につなげる。			
	・進路情報の収集と提供	・生徒面談を通して、生徒の動向の把握に努める。			
		・研修会等に参加して、情報の収集に努める。			
		・進路資料、情報誌の配付などを通して、生徒・保護者に適切な進路情報の提供を行う。			
	・学力向上	・各学年や教科で模試結果の分析を行い、指導上の課題を明確化するとともに、職員間で情報を共有化して指導を行う。			
		・各学年や教科で連携しながら、生徒の家庭学習の習慣化を図る。			
	・学習環境の整備	・平日や休日に自学自習の場として尚志館を開放し、生徒の自学自習の習慣化を図る。			
特別活動	・学校行事の改善	・各種学校行事の内容の一つひとつを丁寧に検証し、本校として実現可能な魅力ある行事の実践に努める。また、すべての行事において、生徒が主体的に企画・運営に関われるようにする。			
	・委員会活動の活性化	・各種委員会の活動内容を見直すとともに、学校行事や日々の学校生活の中に各種委員の活動の場を積極的に設け、活用する。			
	・部活動の活性化	・部・同好会への加入率 80%を達成できるように、部・同好会紹介等の充実と本校伝統の「文武不岐」で啓発する。 ・それぞれの部・同好会が特性を活かし、各種大会・発表の場に参加し、活動範囲を広げられるよう支援する。 ・日々の活動や生活の中に規範意識を持つとともに、互いに協力し合う精神を育てる。また、活動場所の整理整頓を常に心がけ、活動環境を整備美化する。			
	・学級活動の充実	・学校行事や進路指導に伴う学級活動だけでなく、レクリエーション等、各学級活動ならではの独創性のある活動計画を立て、それらの活動を通して協調性や団結心を養う。			
	・キャリアパスポートの活用	・生徒一人一人が自分の足跡を残せるように意識させ、記録を残していけるような助言・支援を行う。			

保健安全	・保健衛生的習慣の確立	・健康診断を行い、適切な保健指導を実施する。			
		・保健室を円滑に運営する。			
	・清掃活動の徹底	・日常的な清掃活動（校舎内外の美化）を適切に行う。			
	・防災意識の高揚	・防災訓練を実施する。			
	・環境衛生の整備	・環境衛生点検を定期的に行う。			
	・学校欠席者情報システムへの報告	・学年で連携して報告を行う。			
	・日本スポーツ振興センター保険の活用	・各部と連携して有効に活用する。			
図書館	・教育課程等の展開に即応した資料の充実	・放射線の定期的な測定と報告を行う。			
		・図書館部予算を的確に執行する。			
		・購入希望図書の調査を実施する。（教員・生徒対象）			
		・より良い図書を選定するための情報収集を行う。			
	・読書、鑑賞等を通して教養を深め、豊かな人間性を養わせる。	・探究活動に対応した選書をし、資料の充実を図る。			
		・読書感想文コンクールへの応募等を、国語科と連携して実施する。			
	・読書会、移動図書販売等を通して、読書に対する興味・関心の向上を図る。	・読書会、移動図書販売等を通して、読書に対する興味・関心の向上を図る。			
	・図書館の正しい利用の態度を身に付けさせ、自学自習の場としても利用させる。	・図書館の正しい利用の態度を身に付けさせ、自学自習の場としても利用させる。			
		・各年次とも協力し、自学自習の場としての静粛と秩序が保たれるよう努力する。			
	・生徒図書委員活動を通して、生徒の自主性を養わせる。	・図書館の正しい利用の態度を身に付けさせ、自学自習の場としても利用させる。			
		・各年次とも協力し、自学自習の場としての静粛と秩序が保たれるよう努力する。			
渉外	・生徒図書委員活動を通して、生徒の自主性を養わせる。	・部職員の指導の下、委員会活動を活発化する。			
		・図書館報・ミニ図書館報・図書館の展示等に、生徒図書委員を積極的に関わらせ、より新鮮なものにする。			
	・図書館管理システムを更に整備し、利用について即応性を向上させる。	・図書館報・ミニ図書館報・図書館の展示等に、生徒図書委員を積極的に関わらせ、より新鮮なものにする。			
		・部職員の指導の下、委員会活動を活発化する。			
	・図書館管理システムを更に整備し、利用について即応性を向上させる。	・図書館報・ミニ図書館報・図書館の展示等に、生徒図書委員を積極的に関わらせ、より新鮮なものにする。			
		・部職員の指導の下、委員会活動を活発化する。			
	・図書館管理システムを更に整備し、利用について即応性を向上させる。	・図書館報・ミニ図書館報・図書館の展示等に、生徒図書委員を積極的に関わらせ、より新鮮なものにする。			
		・部職員の指導の下、委員会活動を活発化する。			
渉外	・コロナ禍における状況の変化に対応した事業の遂行	・評議員会理事会や後援会総会、生徒指導委員会総会などの事業報告や承認の可否について、封筒や郵送によるアナログなもの、HPを始めとするデジタルなもので学校として可能な手段を用いて、会務を遂行する。			
	・収束した場合、役員の方々を中心に協力して頂きながら可能な範囲で事業を行う。				
	・渉外部としての、100周年記念事業の推進	・100周年（同窓会）事務局での渉外部の役割を明確にし、連携を図って100周年記念事業を進めていく。			
渉外	・附属中も含めた後援会の構築	・後援会規約（会則）の改定を行うとともに、附属中の保護者の方から役員を選出する。			

事務	・充実した施設設備の整備	・予算については、費用対効果を念頭におき、経済性・効率性・有効性のある、生徒がより良い学校生活が送れるように執行する。			
		・附属中開設に伴う施設設備を有効に活用するとともに、中・長期的な視点をもって、施設設備の整備充実に努める。破損箇所・危険箇所等については速やかに補修等を行う。			
1 学年	・基礎学力の向上	・英語、数学、国語で必要に応じて習熟度別授業を展開し、基礎学力の定着と向上を図る。			
	・家庭学習の習慣化	・Chromebook を活用し、授業、復習の重要性を認識させ、生徒の家庭学習時間が2時間行われるよう指導し、基礎力の充実に努める。			
	・進路についての意識	・個人面談、進路ガイダンス、大学見学会、職業講話等のキャリア支援を通して、自己理解・社会理解に努め、自己実現の素地を養う。			
	・基本的生活習慣の定着	・「集団の規律を守り、個々が快適な環境を作るための責任を持つ」という意識を持たせる。その実現を図るために、身だしなみ、挨拶、清掃及び時間厳守について指導する。			
	・生徒への対応	・生徒一人一人の状況を丁寧に観察し、常に情報を学年で共有し、養護教諭や教育相談部及び保護者との連携に努める。			
	・部活動活性化の促進	・部活動への積極的な入部を勧め、様々な自己表現の機会を与え、内面の成長を促す。			
2 学年	・基礎学力の向上	・英語、国語、数学での少人数及びチームティーチング授業を充実させ、必要に応じて習熟度別学習を行うなど、基礎・基本の定着を図ることに努める。 ・模試によって、自分の実力を把握し、普段の学習にフィードバックさせる。			
	・家庭学習の習慣化	・授業を学習機会の最重要点と認識させ、（予習→）授業→復習のサイクルの定着を改めて行い、最低家庭学習時間3時間を確保し、学習の支援に努める。			
	・進路意識の高揚	・個人面談、進路講話等のキャリア支援行事を通し、自己理解・社会理解に努め、自らの進路を考える時間を確保させ、進路に向けた生徒自身の意識の高揚を図る。			
	・基本的な生活習慣の定着	・個々が快適な環境を作るための責任を持つという意識の醸成に努め、集団の規律を守ること、わがままな言動を控えることなど、集団生活に必要なことを一つ一つ身につけさせていく。			
	・個々の生徒への適切な対応	・生徒一人一人の状況を丁寧に観察し、常に学年で情報を共有し、教育相談部及び保護者との連携に努める。			
	・課外活動の促進	・部活動、長期休業中の課外、校外でのボランティア活動等への積極的な参加を勧め、様々な機会の中で自己実現の一助とする。			

3 学年	・ 高校入学後につながる学力の維持と人間力の育成	・ 授業中心の学習活動を通し、授業の大切さを理解させるとともに全国レベルの実力を養う。高校進学後も学力を維持し伸ばしていけるように、確かな基礎学力・表現力を身につける指導を実践する。	—	—	※ 3 学年については、令和 4 年度以降に評価を行う。
		・ 日常の生活での自己管理を徹底させるとともに、家庭学習の習慣化と自学自習できる力を育む。また、学習と並行して進路のことについても考えを深め、将来の希望進路を考えながら学習に打ち込む生徒を育成する。	—		
		・ 学力の向上を図るための努力を惜しまず、全国模試を定期的に受験させ、全国レベルでの学力を客観的に把握させるとともに実践的学力を養う。	—		
	・ 進路希望の実現に向けた細やかな指導	・ 進路目標の実現に向けて、個々に応じた面接指導を頻繁に展開し、目標の確認と反省、学習計画の見直し等を図り、きめ細かな進路指導を実施する。	—		
		・ 詳細なデータ分析を基に、どの生徒に何を求めているかについて、関係する学年スタッフ間で共有し、生徒に提供する。	—		
		・ 図書館や進路室を活用して生徒自ら進路情報を収集させるとともに、自主的に学習に取り組み、進路目標を達成できる学力・精神力を涵養する。	—		
	・ 銚田一高附属中学生としての誇り・自覚の高揚と地域・社会の中核となるべき人間の育成	・ 「文武不岐」の伝統の下、部活動や学校行事に積極的に参加させる。その中での人と人との関わりを通して、コミュニケーション能力、問題解決能力等を育む。	—		
		・ 様々な活動の中で、常に銚一附属中学生としての自覚を持たせ、リーダーシップを発揮できるよう指導する。	—		

※ 評価基準

A：大変良くできた

B：良くできた

C：普通

D：やや不十分

E：不十分